

1 本園の教育目標

教育理念 「キリスト教保育に基づき、明るく素直な生活態度、逞しい身体、豊かな情操を育むことを保育理念とする。」

- ・ 神を賛美し、つねに感謝する子ども
- ・ 自ら考え想像し、仲間と共に遊びや生活を作り出す子ども
- ・ 異年齢児と親しく関わり、育ち合う子ども
- ・ 豊かな自然と関わる創造的な子ども

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・ 戸山幼稚園の特徴である“自然環境”を活かし、子どもたちが自然物に興味を持ったり、調べたりする経験を増やす。
- ・ 新任教諭の育成を心がけ、戸山幼稚園の保育を一貫して守りながら保護者への理解を促す。

3 評価項目の達成および取り組み状況

*評価 A=十分に成果があった B=成果があった C=成果なし

評価項目	取り組み内容	自己評価	評価
保育について	・ 遊びの中でより深い学びが出来るような保育計画	・ 園外研修への参加を促進し、子どもの発達特性への理解を深めたことで、本当に必要な保育計画は何かを職員間で話し合い、質の向上に努めることが出来た。 ・ 子どもたちの姿から必要な環境や援助について検討し、担任たちは PDCA を習慣化している。	A
宗教的学びについて	・ 月に一度の礼拝 ・ 讃美歌に親しむ ・ クリスマス会での年長の生誕劇	・ 牧師である園長の言葉を全園児で聞く機会を月に一度の礼拝の時間に持っている。スライドショーなど、子にわかりやすい工夫を心がけて簡潔に伝えることで理解を促すことができた。 ・ 月毎の讃美歌に触れ、歌を通して神を賛美する喜びに触れる。 ・ 年長はイエス様の降誕について知り、それらを生誕劇として披露することで園全体の学びや喜びの場とすることができた。	B
食育について	・ 園庭で様々な自然物に触れる。 ・ 夏野菜について知り、自分の手で育て収穫する。 ・ 実際に夏季保育で味わう。	・ 年長児の夏季お泊り保育に合わせて、夏野菜の収穫が出来るように保育計画を立て、子の知的好奇心が高められるよう配慮した。実際に味わうまでの間には、枯れてしまったり、植物が病気になってしまったりする経験を積んだり、大切にお世話をしても上手くいかないことがあるという自然の力に触れる学びを得たりした。 ・ 絵を描きながら生長を見守ったりし、日々友だちと大切に育てることで苦手な野菜に対する抵抗感を無くし、食した。	A
安全管理について	・ 園内の安全管理 ・ 遊具や用具の点検、確認	・ 職員間で気になる箇所は常に共有をし、専属の大工と改善策を練ることで、安全を心掛けた。 ・ 限られた予算の中で出来る範囲を整理し、優先順位を検討して修繕などに当たることが出来た。	A

人材について	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実 ・園外研修の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・新任が増えたことで、園の保育理念を常にみんなで心掛けて過ごせるように園内研修の時間を確保した。 ・園外研修で各自学んだことをレジュメにまとめて報告、共有できるように努めてきた。 	A
特別支援保育について	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区療育センターとの連携 ・民間療育との連携 ・園外研修への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで以上に配慮児が増えている環境において、専門家の意見を取り入れて、現場での姿と絡め、より最善の対応をしていけるように学びを深めた。 ・民間療育との連携はこれまで以上に多く取り、各ご家庭の悩みや不安なども共に考えられるように配慮した。 ・担任職員のみならず、加配や補助職員の研修参加も推奨し同じ目線で対応できるように配慮出来た。 	B
地域環境について	<ul style="list-style-type: none"> ・園周辺の自然環境に触れる機会の保障 ・生き物の飼育 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれた園環境なので、子どもたちが自ら興味を持って手を伸ばせるように、四季折々の自然遊びを取り入れた。特に秋は焼き芋パーティーを行い、自分たちで落ち葉や木の枝を集めて手作りの焼き芋を味わうことが出来た。 ・興味のある昆虫についてみんなで調べ、飼育可能かどうかクラスでの検討。飼育する場合は、どのような配慮が必要なのかを子ども同士で刺激し合いながら体験を通して学んでいった。 	B
保護者との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会運営 ・行事の開催 ・園からの発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度の役員との打ち合わせを設け、父母の会の意見を取り入れながら保育計画を全うすることができた。 ・コロナ禍で縮小されていた行事なども、共に見直し新たな形を追求し、連携を取りながら開催することが出来た。 ・本年度から写真を取り込んだ園だよりを発行することで、保護者の園理解を促せるように努めた。また、紙面のみならず動画にて配信することで、よりリアルに園での姿を知ってもらえるように配慮した。 	A

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	上記の通り、全職員で様々な視点から園の保育や環境を見つめ、今必要なことが何かを整理しながら計画、実行することが出来た。子どもを中心とした保育を心掛けることで、園に携わる職員の連携が深まっているため、質の向上へも繋がっている。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	緊急事態の発生時に、子の命を最優先に守ることが出来るように教職員間での防犯、防災対策を意識し、研修などで知識を付けながらマニュアル等を見直す。
保育計画	コロナへの対策の緩和が進む中で、子ども、保護者、職員にとっての最適な計画が何かを見直し、全てにおいて負担感を改善する。より園での充実度を高く持って過ごせるように取り組む。

